

「KRMS の開発とパイロットプロジェクトの適用」

Mr. Min Chul KIM (KHNP Central Research Institute, 韓国)

KHNP(韓国水力原子力発電)は、2007年の Wolsong1 号機の圧力管取替、および 2011 年の Hanul2 号機の蒸気発生器取替で、外国の RMS(リモート放射線監視装置)を採用した。その教訓から、KHNP は、韓国の原子力発電所に、より適切である自社製の RMS を製造することを決定した。

KHNP は、電子式個人線量計、CCTV、イヤークラスセット、中継器、基地局およびシステム・サーバーから成る RMS を 2012 年に開発した。拡張機能の 1 つは、すべて情報がリアルタイムで輸送され、メインサーバーに格納されることである。

KHNP は、2012 年のハンビット (旧霊光) 4 および 3 号機の停止中に性能試験のためのパイロットプロジェクトを継続的に実施し、実地試験結果を反映してシステムを改善した。KHNP は、放射線安全および労働生産性のため放射線作業従事者線量のリアルタイムモニタリングを強化することを計画している。

